

高岡市埋蔵文化財調査概報 第70冊

市内遺跡調査概報XX

—— 平成21年度、中曾根西遺跡・東木津遺跡・西佐野千代遺跡の調査他 ——

2011年3月

高岡市教育委員会

市内遺跡調査概報XX

—— 平成21年度、中曾根西遺跡・東木津遺跡・西佐野千代遺跡の調査他 ——

2011年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市域においては、現在326箇所もの遺跡が周知されています。概して丘陵や台地部においては縄文集落をはじめ、古墳群や城郭跡が多く所在し、また、伏木台地には越中国府が置かれていたことが知られています。平野部においても、農耕文化以降の集落遺跡や官衙的な遺跡が多く分布しています。

これら多くの遺跡で醸成された文化は、ご先祖から脈々と受け継がれ、現在の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっておりまます。

本市におきましては、長年にわたりこれらの保護を実施して参りました。このたび報告いたしますのは、平成21年度に実施した個人住宅の建築などの開発行為にともなう発掘調査の成果です。

このうち、高岡市北東部に位置する中曾根西遺跡の発掘調査では、古代から近世の遺構や遺物を確認しました。また、高岡市街地の南西に位置する東木津遺跡では、古墳時代を中心とした遺物や竪穴住居址が確認されました。そしてこの遺跡の南方に位置する西佐野千代遺跡におきましても弥生時代から古墳時代にかけての遺物が多く出土しているなど、当該地の歴史を語る貴重な資料を得ることができました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

高岡市教育委員会

教育長 水見 哲正

例　　言

1. 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為にともない実施したものである。
3. 現地調査は平成21年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成22年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
4. 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は、17遺跡24箇所である。
5. 調査形態は、本発掘調査を実施した中曾根西遺跡（鷲北地区）以外はすべて試掘調査である。
6. 調査関係者は以下のとおりである（高岡市教育委員会文化財課）。

課　　長　人巻宏治
総括専門員　大村友則（21年度）　高田克宏（22年度）
主　　幹　中野由美子（22年度）
副　　主　山口辰一（21年度）
主　　査　根津明義
主　　任　栗山雅夫（21年度）
嘱　託　職　員　川上和彦（22年度）
道標弘明（22年度）

7. 屋外調査は21年度に山口が担当し、報告書の編集は山口の旧稿をもとに、22年度に山上・道標・根津が加筆、修正した。

8. 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。（五十音順）

【現地調査】

安藤誠吾　石田敏行　人鍋欣次　上子啓祐　萱岡雅光　川越香奈子　河原康弘　北村智之
久保田貢英　黒田貴之　小板透郎　小林央　齊藤後祐　沢田和明　清水不二雄　新家秀次　高岡誠
高崎輝雄　竹内真二　田中邦泰　富田幸吉　中山賢富　島山行男　馬遠弘一　平井健之　深田力
松本雄祐　山口忠男　山崎一男　山田依里佳　山口誠見　渡辺克己

【報告書編集作業】

大澤拓馬　北島裕子　北村史織　樺嶺文枝　青谷万須美　竹部光希　東海林心　瀬原史織　宮野美重子

9. 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会で一括保管している。

凡　　例

1. 連携等の記号は以下のとおりである。

SD：溝状連携　SI：堅穴住居址　SK：土坑　SX：その他　SP：ピット　NR：自然流路

2. 遺物番号は以下のとおりである。

1000番台：中曾根西遺跡（鷲北地区）　2000番台：東木津道路（ピックライム地区）

3000番台：西佐野千代遺跡（松崎地区）　4000番台：江尻遺跡（園場整備地）X

3. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本とするが、異なるものはその縮尺を当該図周辺に付記した。

日 次

序
例　　言
凡　　例
日　　次

第1章　遺跡の位置と歴史的環境.....	1
第2章　中曾根西遺跡（鷺北地区）.....	3
第1節　遺跡概観.....	3
第2節　調査の概要.....	4
第3節　検出遺構と出土遺物.....	4
第4節　総括.....	7
第3章　東木津遺跡（ビッグライム地区）.....	8
第1節　遺跡概観.....	8
第2節　調査の概要.....	9
第3節　検出遺構と出土遺物.....	9
第4節　総括.....	10
第4章　西佐野千代遺跡（松崎地区）.....	12
第1節　遺跡概観.....	12
第2節　調査の概要.....	12
第3節　検出遺構と出土遺物.....	13
第4節　総括.....	14
第5章　その他の遺跡調査.....	18
1. 桜谷古墳群（増井地区）	10. 下黒田遺跡（畠地区）
2. 江尻南遺跡（村本地区）	11. 瑞穂町遺跡（仲宗根地区、海瀬地区）
3. 越中国府間連遺跡（鳥地区）	12.)出 4丁目北遺跡（池田地区）
4. 中保B遺跡（中村地区）	13. 下伊野遺跡（瀬川地区）
5. 越中国府間連遺跡（岩城地区）	14. 下佐野遺跡（豊原地区）
6. 岩坪岡田島遺跡（鳥井地区）	15. 下佐野遺跡（作田地区）
7. 亦丸古村遺跡（八幡1地区、八幡2地区）	16. 下老子笹川遺跡（杉森地区）
8. 上黒田遺跡（加藤1地区、中村地区、加藤2地区）	17. 西佐野千代遺跡（栗田地区）
9. 江尻遺跡（漁場整備地区）	

挿 図 目 次

第1図	調査位置図	2
第2図	中曾根西遺跡（鷺北地区）位置図	3
第3図	中曾根西遺跡（鷺北地区）調査区位置図	4
第4図	中曾根西遺跡（鷺北地区）Ⅲ層検出遺構図（1/150）	5
第5図	中曾根西遺跡（鷺北地区）V～VI層検出遺構図（1/150）	6
第6図	東木津遺跡（ビッグライム地区）位置図	8
第7図	東木津遺跡（ビッグライム地区）調査区位置図	9
第8図	東木津遺跡（ビッグライム地区）遺構図	11
第9図	西佐野千代遺跡（松崎地区）位置図	12
第10図	西佐野千代遺跡（松崎地区）調査区位置図	13
第11図	西佐野千代遺跡（松崎地区）遺構図	15
第12図	中曾根西遺跡（鷺北地区）・東木津遺跡（ビッグライム地区）遺物実測図	16
第13図	西佐野千代遺跡（松崎地区）遺物実測図	17
第14図	桜谷古墳群（増井地区）位置図	18
第15図	江尻南遺跡（村本地區）位置図	19
第16図	越中国府間連遺跡（島地区）位置図	20
第17図	中保B遺跡（中村地区）位置図	21
第18図	越中国府間連遺跡（岩城地区）位置図	22
第19図	岩坪岡田島遺跡（島井地区）位置図	23
第20図	岩坪岡田島遺跡（島井地区）調査区全体図	24
第21図	赤丸古村遺跡（八幡1地区、八幡2地区）位置図	25
第22図	上黒川遺跡（加藤1地区、中村地区、加藤2地区）位置図	26
第23図	江尻遺跡（圃場整備地区）位置図及び出土遺物実測図	28
第24図	下黒田遺跡（畠地区）位置図	29
第25図	瑞穂町遺跡（仲宗根地区、海瀬地区）位置図	30
第26図	瑞穂町遺跡（仲宗根地区、海瀬地区）遺構図	31
第27図	戸出4丁目北遺跡（池田地区）位置図	32
第28図	下佐野遺跡（瀬川地区）位置図	33
第29図	下佐野遺跡（豊原地区）位置図	34
第30図	下佐野遺跡（豊原地区）遺構図	35
第31図	下佐野遺跡（作田地区）位置図	36
第32図	下佐野遺跡（作田地区）遺構図	37
第33図	下老子笹川遺跡（杉森地区）位置図	38
第34図	西佐野千代遺跡（栗田地区）位置図	39

図版目次

- 図版01 遺構写真 中曾根西遺跡（鷺北地区）
1. 調査区全景
2. 道路遺構等調査状況
- 図版02 遺構写真 東木津遺跡（ピッグライム地区）
1. 調査区全景
2. 墓穴住居址 S I 701全景
- 図版03 遺構写真 東木津遺跡（ピッグライム地区）
1. 調査区全景
2. 墓穴住居址 S I 701調査状況
- 図版04 遺構写真 東木津遺跡（ピッグライム地区）
1. 土坑 S K301遺物出土状況
2. ピット S P02遺物出土状況
- 図版05 遺構写真 東木津遺跡（ピッグライム地区）
1. 墓穴住居址 S I 702全景
2. 墓穴住居址 S I 702遺物出土状況
- 図版06 遺構写真 東木津遺跡（ピッグライム地区）
1. 頸椎器高杯（2009）出土状況
2. 土師器高杯（2007）出土状況
3. 墓穴住居址 S I 701土師器壺（2001）出土状況
- 図版07 遺構写真 西佐野千代遺跡（松崎地区）
1. 調査区全景
2. 第1トレンド全景
- 図版08 遺構写真 西佐野千代遺跡（松崎地区）
1. 土師器器台（3009）出土状況
2. 上師器壺（3007）出土状況
- 図版09 遺構写真 西佐野千代遺跡（松崎地区）
1. 不明遺構 S X409検出状況
2. 占墳前期土師器壺出土状況
- 図版10 遺構写真 西佐野千代遺跡（松崎地区）
1. 第Ⅲ層遺物出土状況
2. 土師器器台出土状況
3. 土師器器台出土状況
- 図版11 遺構写真 西佐野千代遺跡（松崎地区）
1. 上師器器台（3014）出土状況
2. 土師器高杯出土状況
3. 第Ⅲ層遺物出土状況
- 図版12 遺構写真 江尻遺跡（圃場整備地区）
1. B区第9トレンド遺構検出状況
2. C区第16トレンド溝状遺構 S D01検出状況
- 図版13 遺構写真 江尻遺跡（圃場整備地区）
1. E区第24トレンド遺構検出状況
2. F区第21トレンド遺構検出状況
- 図版14 遺構写真 江尻遺跡（圃場整備地区）
1. G区第23トレンド遺構検出状況
2. G区第23トレンド遺構検出状況
- 図版15 遺構写真 江尻遺跡（圃場整備地区）
1. G区第23トレンド弥生土器出土状況
2. H区第18トレンド遺構検出状況
- 図版16 遺構写真 江尻遺跡（圃場整備地区）
1. B区第9トレンド打製石斧（4001）出土状況
2. G区第23トレンド石包丁（4002）出土状況
3. H区第18トレンド遺構検出状況

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第2位の人口を擁する。市域は東西約24.5km、南北約19.2kmに及び、その面積は富山県域の約5%にあたる209.38km²を有する。

地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の穀倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促す地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの二河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高300mに満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

現在、高岡市では326もの遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、古代の北陸道は西山丘陵の山麓線沿いにはじめていたとされる。

平野部には、弥生時代を主体とする集落遺跡として県内有数の規模を誇る石塚遺跡や下老子笹川遺跡、古代における官衙的な遺跡とされる東木津遺跡や中保B遺跡、中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

平成21年度の調査においても、佐野台地上の遺跡からは数多くの遺物が発見されており、過去の発掘調査の傾向と合致することが確認された。

中曾根西遺跡は、庄川右岸の自然堤防上に立地し、弥生時代から中世を主体とした遺跡とされる。平成15年度の調査においては、弥生土器だけでなく井戸や方形周溝墓、円形周溝墓など多くの遺物や遺構が確認されている。

東木津遺跡は、佐野台地上に立地する遺跡である。過去に多くの発掘調査が行われており、古代を主体とする遺跡と認識されてきたが、今回の調査成果により古墳時代の集落という新たな視角が見出されたといえる。

西佐野千代遺跡も佐野台地上に立地する遺跡である。過去の調査成果では弥生時代から平安時代の遺物が出土しているが、今回の調査では弥生時代から古墳時代にかけての遺物が多く出土し、この遺跡を考えるうえで大きな成果となった。

①桜谷古墳（増井地区） ②江尻南遺跡（村本地區） ③・⑤越中国南遺跡（島、岩城地区）

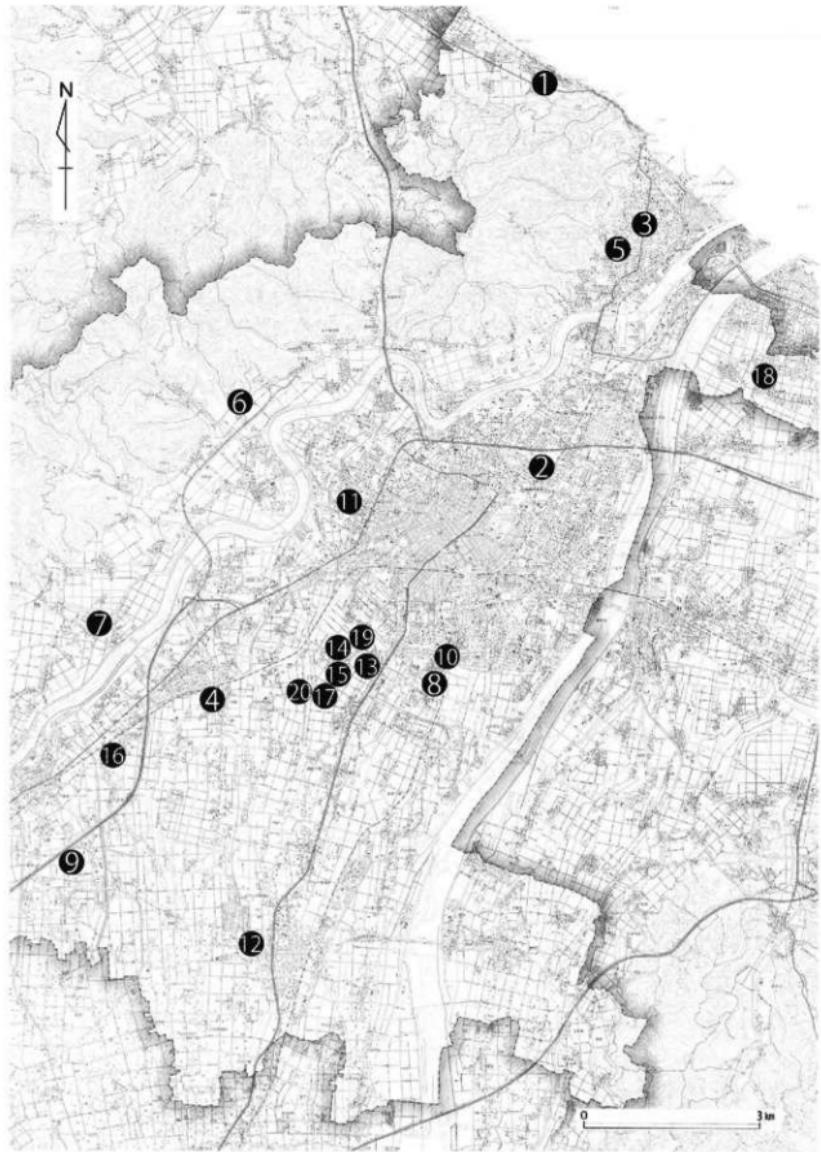
④中保B遺跡（中村地区） ⑥岩坪岡田島遺跡（鳥井地区） ⑦赤丸古村遺跡（八幡1、八幡2地区）

⑧上黒田遺跡（加藤1、中村、加藤2地区） ⑨江尻遺跡（興場整備地区） ⑩下黒田（旧H S -02）遺跡（細地区）

⑪瑞穂町遺跡（仲宗根、海瀬地区） ⑫戸出4丁目北遺跡（荒田地区）

⑬・⑭・⑮下佐野遺跡（瀬川、豊原、作田地区） ⑯下老子笹川遺跡（杉森地区）

⑰・⑲西佐野千代遺跡（栗田、松崎地区） ⑳中曾根西遺跡（鷺北地区） ㉑東木津遺跡（ビッグライム地区）



第1図 調査位置図

第2章 中曾根西遺跡（鷺北地区）

第1節 遺跡概観

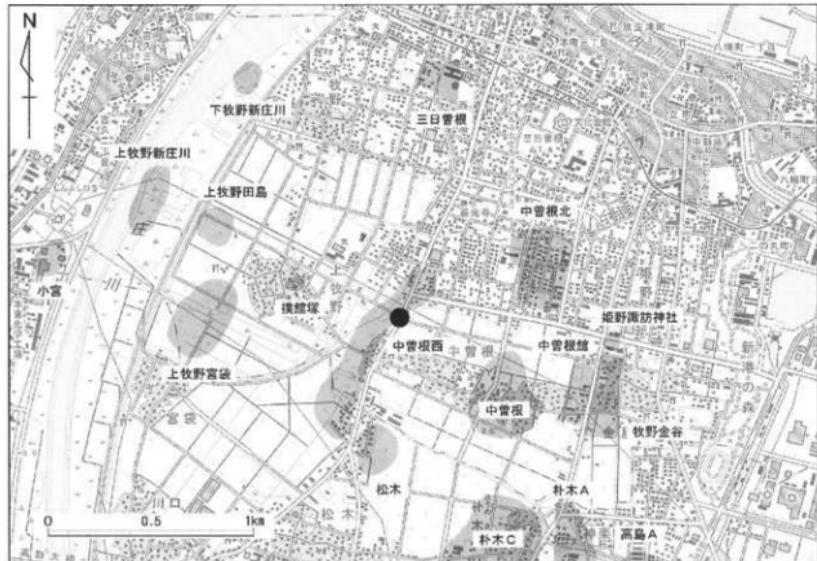
中曾根西遺跡は、庄川河口より約2km内陸の標高1~2mの沖積低地に位置し、主要地方道新湊庄川線にはほぼ並行するようにして南北にひろがる。

周辺には、縄文時代中・後期と目される三日曾根遺跡のほか、弥生時代から中世を主体とする中曾根遺跡や中曾根北遺跡、そして中世放生津金屋の比定地とされる牧野金屋遺跡や、宗良親王の伝承で知られる撲館塚遺跡などが所在する。

中曾根西遺跡は、平成6年度に実施の分布調査により、旧木戸口A遺跡と木戸口B遺跡を合併し新たに設定した埋蔵文化財包蔵地である（高岡市教委1995）。また、現状では弥生時代中期から終末期、及び古代から近世の存続が確認されている。

平成15年度に実施した「能町姫野線地区」の本発掘調査では、弥生時代後期の方形周溝墓や井戸址のほか、推定22棟からなる中世の掘立柱建物などの良好な資料が得られている（高岡市教委2005）。

また、平成21年度においては、本地区的近隣にあたる「土地区画整理地区」の本発掘調査も行われ、南北方向にはしる道路址をはじめとする中世の様相が確認されている（高岡市教委2010）。



第2図 中曾根西遺跡（鷺北地区）位置図

第2節 調査の概要

調査は、まず重機で表土を掘削し、その後に作業員を動員して包含層の掘削をはじめ、遺構検出・遺構掘削・遺物取り上げといった一連の掘削関連の作業を行った。またこれと並行して各種写真撮影のはか、遺構概略図・遺構断面図・遺構平面図作成等の記録固形化作業を実施した。

作業は平成21年4月7日から5月20日（一時中断）まで行い、対象となる250m²のうち発掘調査可能な215m²を発掘調査した。

本調査地区の基本層序は、基盤層をふくめ計6層に分層できる。まず、厚さ約20cmのⅠ層（表土層）を最上層とし、以下は、厚さ約10~30cmのⅡ層（褐色粘質土）、厚さ約4~8cmの遺物包含層であるⅢ層（黒褐色土）、厚さ約8cmのⅣ層（黒褐色土）、基盤層のブロックを多量に含むV層、そして基盤層（VI層）となっている。

第3節 検出遺構と出土遺物

本調査地区は、平成20年度に試掘調査を実施しており、その結果にもとづき文化層が2面あることを想定して今回の本発掘調査を実施した。遺構が確認されたのはⅢ層と、V~VI層である。

Ⅲ層では、溝状遺構4条（S D201~204）と自然流路1条（N R01）が検出されている。一方のV~VI層では溝状遺構10条（S D205~214）のほか、土坑12基（S K301・302・307~312）とピット32基（S P01~32）が検出された。

また今回の調査では、弥生土器をはじめ、土師器・須恵器・珠洲・陶磁器・石製品・鉄滓など、整理箱にして0.5箱分の遺物が出土した。しかし、遺構からの出土遺物がほとんどなかったため、遺構の時期を特定することは困難であった。



第3図 中曾根西遺跡（鷺北地区）調査区位置図

第1項 第Ⅲ層検出遺構

溝状遺構 S D 201

調査地区南部で検出された東西方向へはしる溝状遺構である。全長5.0m以上、幅0.45~0.6mをはかる。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 202

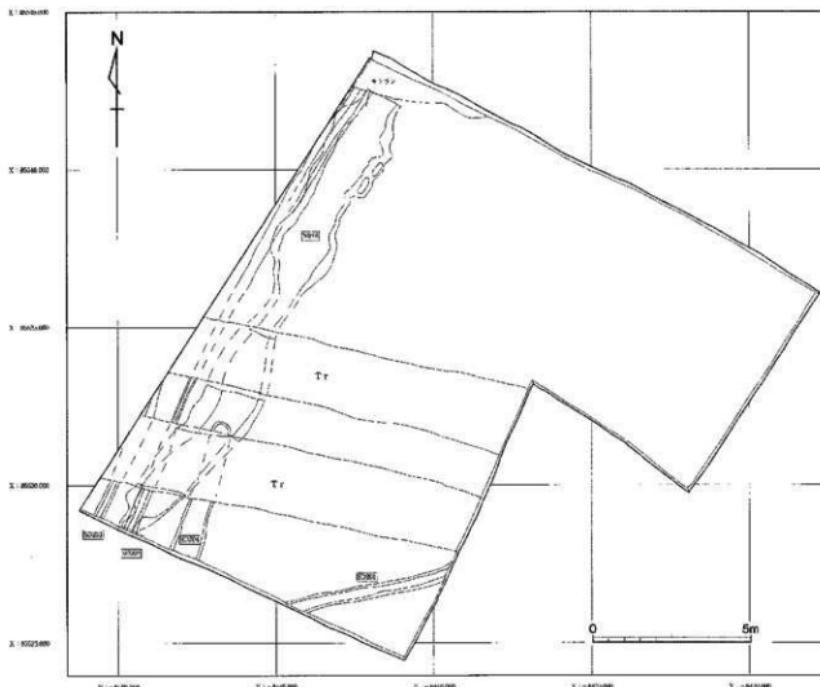
調査地区南西部で検出された北東から南西方向へとはしる溝状遺構である。南西部及び北東部で自然流路N R 01を切る。全長16.0m以上、幅0.15~0.5mをはかる。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 203

調査地区南西部で検出された北東から南西方向へとはしる溝状遺構である。全長4.0m以上、幅0.45~0.6mをはかる。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 204

調査地区南西部で検出された北東から南西方向へとはしる溝状遺構である。北東部で自然流路N R 01を切る。全長4.5m以上、幅0.6~0.9mをはかる。遺物は出土しなかった。



第4図 中曾根西遺跡（鷺北地区）Ⅲ層検出遺構図（1／150）

第2項 第IV～VI層検出遺構

溝状遺構 S D 205

調査区北東部で検出された南北方向に走行する溝状遺構である。全長9.5m以上、幅0.45～0.75mをはかる。西方に位置するS D 206とはば3mの距離をあけて並走しており道路遺構となる可能性を有する。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 206

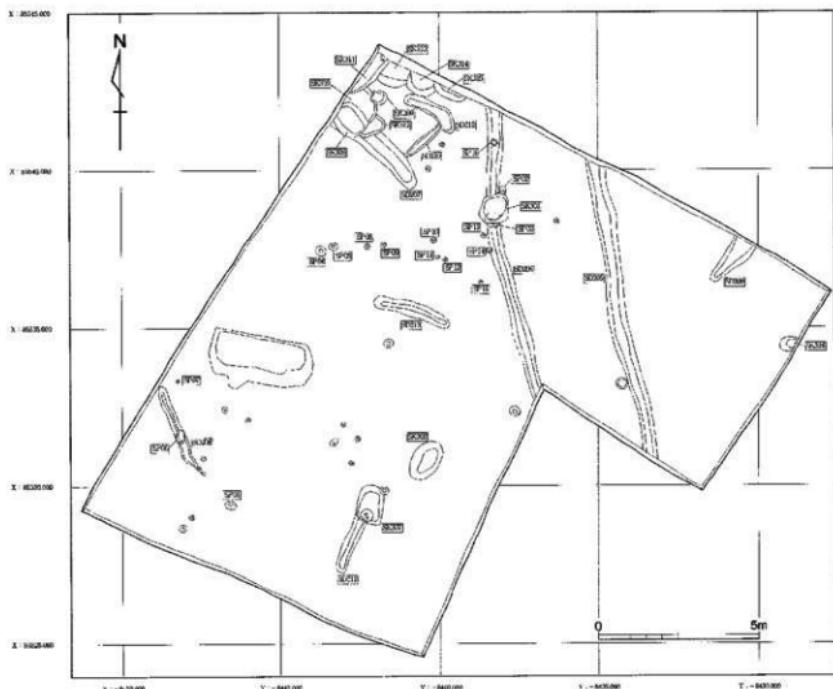
調査区北部で検出された南北方向に走向する溝状遺構である。北部においてS P 16とS K 301に切られ、S P 03を切る。全長9.7m以上、幅0.45～0.6mをはかる。東方に位置するS D 205とはば3mの距離をあけて並走しており道路遺構となる可能性を有する。出土遺物はない。

土坑 S K 301

調査区北部で検出された不整梢円形を呈する土坑である。長軸1.1m、短軸0.9mをはかり、北側においてS D 206とS P 02を切り、南側でS D 206とS P 03を切る。遺物は出土しなかった。

土坑 S K 302

調査区南部で検出された梢円形を呈する土坑である。長軸1.4m、短軸0.9mをはかる。遺物は出土しなかった。



第5図 中曾根西遺跡（鷺北地区）V～VI層検出遺構図（1／150）

調査地区北西部の土坑群と溝状遺構

本調査地区的北西部からは8基の上坑（SK308～315）と3条の溝状遺構（SD207・210・212）が検出されている。

SK308は梢円形を呈する上坑であり、長軸1m以上、短軸1mをはかる。SD207のほか、SK310や312を切る。SK311は梢円形を呈するもので、長軸1.7m以上、短軸1m以上をはかる。遺構の多くが調査区外に所在するとみられるため全容は不明である。上坑SK310及び313を切る。

SD210は北東から南西方向へとはしる溝状遺構であり、SD207及びSD212は北西から東南方向に走行する。SD210はSD207とSD212に切られる。

SD210は全長1.5m、幅0.15～0.45mを呈する。SD207は全長3.5m以上、幅0.75m以上をはかる。SD212は全長1.8m、幅0.45～0.6mをはかる。ともに遺物の出土はない。

なお、SD207はSD210を切るがSK308・310・312に切られる。SD212はSD210を切りSK314に切られる。

ピットSP03

調査地区北部で検出された。SD206やSK301と平面的に重複するが木造構が最も古い。規模は長軸0.45m、短軸0.15mを呈する。柱痕と考えられる上層の堆積が確認されたが、柱穴は発見されておらず、またこうした上層を呈するのも木造構1基のみである。遺物は出土しなかった。

ピットSP05・09・10・13

調査地区中央北部において東西方向に列を成して検出された径0.15～0.45m程度のピット群である。周辺にもピットは存在するが、これら4基はほぼ一定の間隔を呈しており、柵を構成していた可能性を有する。遺物は出土しなかった。

第4節 総括

本書で報告する中曾根西遺跡（鷺北地区）は、同時期に本発掘調査を実施した「土地区画整理地区」のと隣接する。ここでは双方の調査区をふくめ、今後の課題や問題提起など述べておきたい。

すでに解説したように、鷺北地区では2条の溝状遺構SD205・206が並走する。状況的にこれらは道路址とみられるが、同址については「土地区画整理地区」で検出されたものと同一と考えられる。そしてその全長は少なくとも80mを超え、さらに南北方向へと延長することが確定である。

なお、「土地区画整理地区」には、これとは別の方針や構造を呈する道路址も検出されている（高岡市教委2010）。反対は互いに切りあう関係にあるが、存続時期や用途などは今後の課題と考える。

ただし、類似する方位をとる道路が一定期間にわたり存続していたことになる。本来的に道路とは人々の交流の結果として発生するものであり、その両端や道程にはこれを機軸とした歴史的様相が展開した可能性をもつ。

今回の調査結果が、仮に往時を把握するに比して希少なものであったとしても、この遺構の検出は、当該地の歴史を解明していくうえでの一つの研究視点となったものと考えられる。

第3章 東木津遺跡（ビッグライム地区）

第1節 遺跡概観

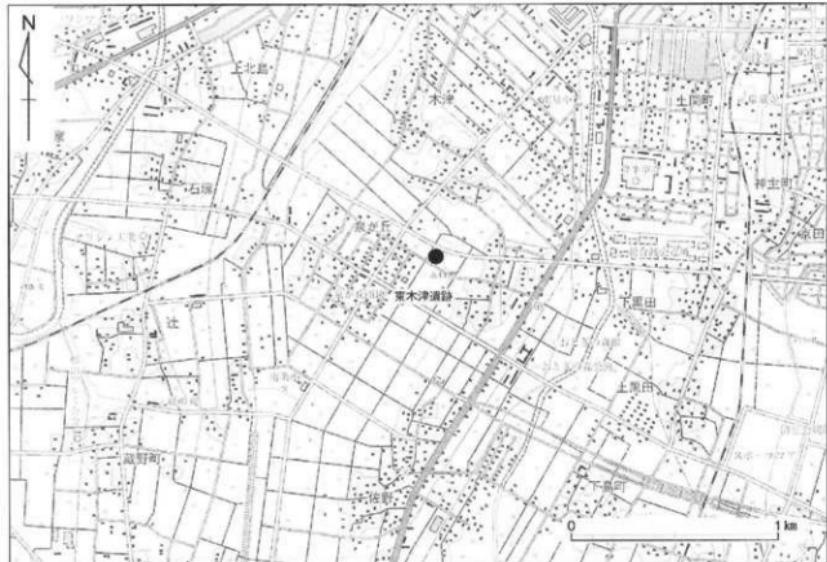
東木津遺跡は、庄川扇状地の扇端部にあり、千保川や祖父川の浸食により段丘化した「佐野台地」の北東端部に立地する。

佐野台地は、弥生時代中期から平安時代前期の遺跡が集中し、東木津遺跡（今井1地区）でも古墳時代前期を主体とする土坑群のほか、良好な土器の一括資料が得られている。

奈良・平安時代においては、整然と配された掘立柱建物群をはじめ、木簡・墨書き器・漆紙文書などの文字資料や、出土遺物における食膳具の比率の高さなどから官衙的な性格が指摘されている。遺跡内を流れる溝からは人形・馬形・鳥形・琴柱形・刀子形・韋申などが検出され、律令祭祀も行われていた（高岡市教委2001）。

なお、文献史学を主体とする研究では、射水郡十郷のうち布師・伴両郷の比定地が特定されていない。しかしながら、当地周辺をふくむ2箇所で長期の存続と官衙的な様相が想定されたほか、当遺跡から「布師郷」刻書などが検出されたことから、同郷に比定する意見もある（堀沢2001）。

しかし、その一方では、建物址など居住に関わる遺構以外に、木製祭祀具の工房址や、多数の歎状遺構など生産に関わる遺構が近年検出されている。後者については、切り合いや軸方向によって3期の変遷が考えられ、畠地の占有面積が徐々に拡大していく様子が明らかになってきている（高岡市教委2009）。



第6図 東木津遺跡（ビックライム地区）位置図

第2節 調査の概要

今回の調査においては通常の調査工程をふみ実施した。重機による表土の掘削の後、作業員を動員した包含層の掘削をはじめ、遺構検出や遺構掘削など一連の掘削作業を行った。またこれと並行し写真撮影のほか、遺構断面図や遺構平面図の作成を行った。

屋外調査は、平成21年6月10日から6月25日まで実施し、調査対象面積394m²のうち157m²を調査した。調査地区の基本層序は基盤層をふくめ6層に分層できる。ただし、上位4層は現代の擾乱を受けているとみられる。

第3節 検出遺構と出土遺物

豊穴住居址S I 701

調査地区南東部で検出された。規模は南北6.0m、東西5.0m以上で、南壁に独立棟持柱の柱穴と考えられる張り出し部をもつ。現代の堆肥用の溝を掘削し断面を観察した結果、建物址のほぼ中央から炉址と考えられる炭化物が厚く堆積したピットが検出された。

豊穴住居址S I 702

調査地区西部で検出された。南北3.8m、東西2.0m以上の規模を有し、覆土の大半は掘削されているが、床には貼り床がほぼ全面に施されている。床面直上には土葺屋根と考えられる粘性の強い黒色土が堆積していた。また、建物址埋没過程で土器や粘土を投棄した痕跡が認められた。



第7図 東木津遺跡（ビックライム地区）調査区位置図

堅穴住居址 S I 703

調査地区北東部で検出された。規模については調査区外であるため不明である。溝状遺構 S D208と209に平面的に重複するが本遺構が最も古い。また、堆肥用の溝を掘削し断面を観察した結果、主柱穴と考えられるピットが検出された。

土坑 S K 301

調査地区南西部で検出された長軸3.2m以上、短軸0.8mの土坑である。溝状遺構 S D205と重複するが本遺構の方が古い。一部を現代の堆肥溝に削平されている。遺物の出土状態から、破碎した土器を括で投棄したものと考えられる。出土した遺物は甌や壺が多く、赤彩土器も含まれる。

溝状遺構 S D 205

調査地区のはば中央において、北東から南西方向に走行する溝状遺構である。土層観察から少なくとも3回の掘り直しが確認できる。土師器や須恵器のほか、緑色凝灰岩の薄片が1点出土している。

溝状遺構 S D 208

調査地区北東部で検出された北西から南東方向へはしる溝状遺構である。覆土から須恵器の高杯脚部が出土している。

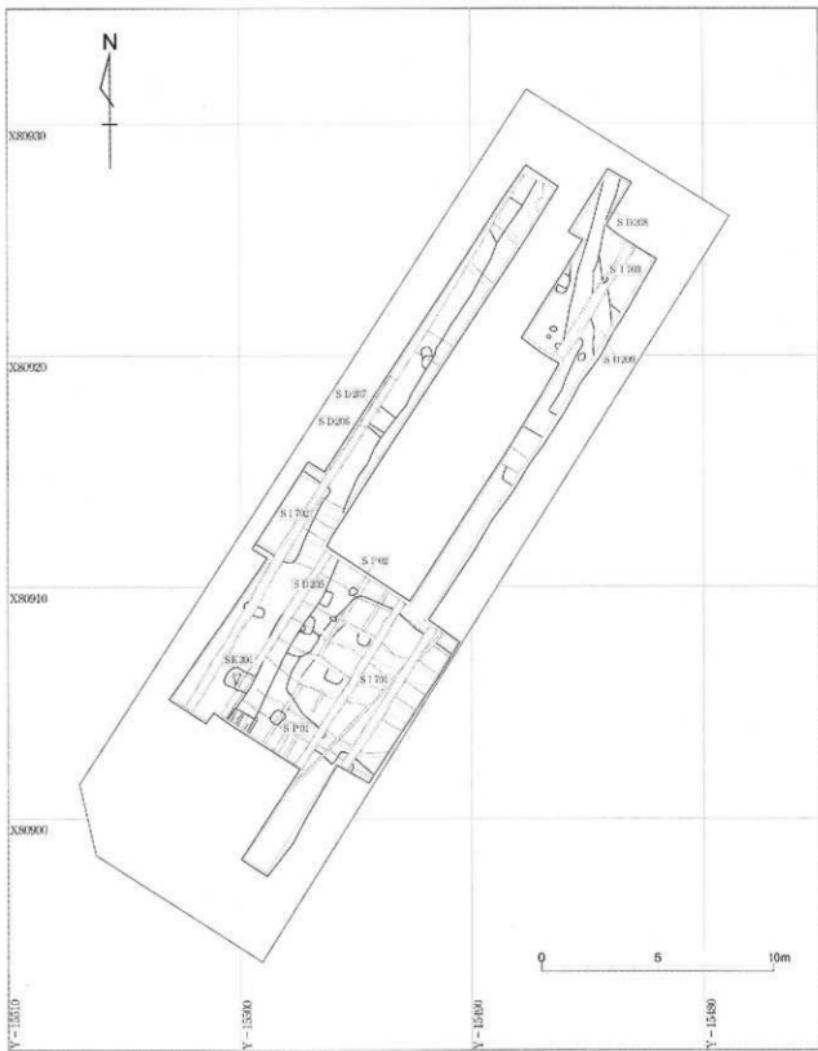
第4節 総括

東木津遺跡は過去に多くの発掘調査が行われ、本調査区と隣接する「間口地区」と「今井1地区」、「吉岡地区」でも、古代を中心とする遺物が出土したほか、全城から墓状遺構が検出されている(高岡市教委2004・2009・2010)。

本調査区においても、古墳時代から中世の遺物が出土したが、古墳時代前半期を中心とする遺物が多くを占め、また同時代のものとみられる堅穴住居址も確認されている。

東木津遺跡の過去の調査成果は、古代の官衙的な様札が突出的であった。しかし、断片的ながらも古墳時代の遺物や遺構の検出もあり、上記した「今井1地区」においても土坑から多数の遺物が纏まって出土した例がある(高岡市教委2009)。

上記と隣接する本調査地区においては今回3基の堅穴住居址が確認され、周辺に古墳時代の集落が存在することが明らかとなった。これは、東木津遺跡における新たな研究視角が追加されたものと理解したい。本遺跡における古墳時代の様相は断片的であるが、今後の発掘調査により、これらが明らかになることを期待したい。



第8図 東木津遺跡（ビックライム地区）遺構図

第4章 西佐野千代遺跡（松崎地区）

第1節 遺跡概観

西佐野千代遺跡は、高岡市街地の南西に位置する弥生時代中期から古墳時代前半期をはじめとする遺跡とされる。遺跡の東西は千保川と祖父川が北流し、現地は「佐野台地」と呼ばれる標高13mほどの台地が形成されている。

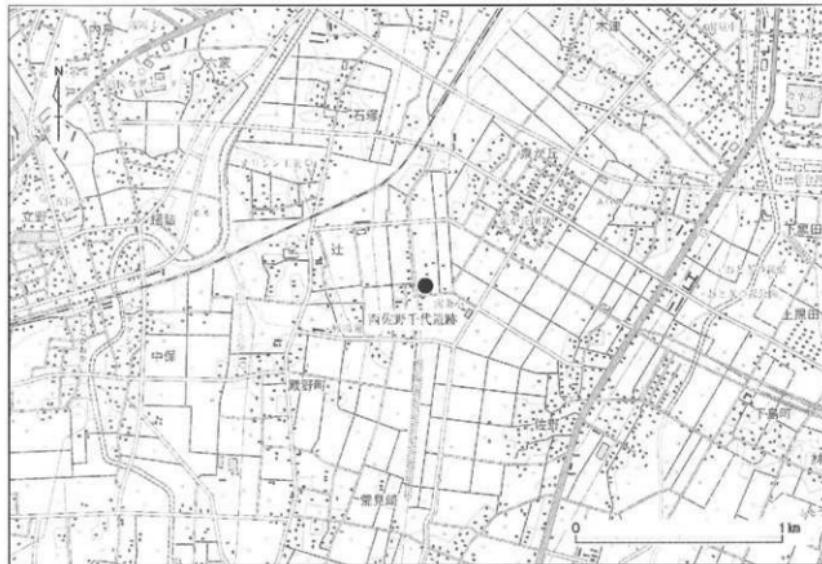
同台地上には、一般に弥生時代中期の遺跡として知られる石塚遺跡をはじめ、弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓群や堅穴住居址などを検出した石名瀬A遺跡、古代から中世にかけての様相が確認された下佐野遺跡などが群在する。

概して弥生時代中期から近世、はては現代に至るまでの歴史的様相が長期にわたり同台地上に存続しており、西佐野千代遺跡もその一角と考えられる。

なお、西佐野千代遺跡は現在までに6件の調査を実施しているが、いずれも小規模な試掘調査であり、本発掘調査は実施されていない（高岡市教委1983・1992）。

第2節 調査の概要

今回の調査においては通常の調査工程をふみ実施した。重機による表土の掘削の後は作業員を動員し、包含層の掘削をはじめ、遺構検出や遺構掘削など一連の掘削作業を行った。そして写真撮影のほか、遺構断面図や遺構平面図の作成を並行して行った。屋外作業は平成21年7月13日から8月6日まで実施し、調査対象のうち144m²を掘削した。



第9図 西佐野千代遺跡（松崎地区）位置図

基本層序は基盤層を含めず5層に分層できるが、基本的には表土層・遺物包含層・遺構確認面の3種に大別できる。

第3節 検出遺構と出土遺物

本地区では、調査地区の現況に即しこの字形にトレンチを設定し、地形及び包含層の形成過程の確認を行った。その結果、遺物包含層からは弥生時代中期から古墳時代前半期の遺物が多量に出土し、これを掘削した下層から遺構を検出することができた。検出した遺構は溝状遺構18条、土坑1基、ピット9基、窪地1個所である。



第10図 西佐野千代遺跡（松崎地区）調査区位置図

不明遺構 S X 406

調査区北側で検出された溝状遺構である。S D201・203・205、S X 403・409と重複するが、新旧関係はS D201・203より古く、他より新しい。覆土中からは弥生時代末から古墳時代初頭の遺物が大量に出土している。

溝状遺構 S D 201

調査区南側から北側へと走行するように検出された溝状遺構である。S X 406と重複するが本遺構が新しい。全長13.5m以上、幅0.15~0.75m以上をはかる。調査地区外へと達しているため全容は不明である。掘削を行った部分からは、弥生時代末から古墳時代初頭の遺物が大量に出土している。

溝状遺構 S D 204・205

調査区北側で検出された溝状遺構である。両遺構は平面的に重複するがS D 204が新しい。また、S D 205はS X 406とも重複しているが本遺構が古い。S D 204に関してサブトレーナーを設定し掘削を行った。断面形状は逆台形を呈しており、覆土中からは弥生時代末から古墳時代初頭の遺物が数点出土している。

不明遺構 S X 409

調査区北側で検出された遺構である。S X 406と重複するが本遺構が古い。南一北方向から東一西方向にほぼ直角に屈曲する。器台・高杯をはじめ鉄石英などが多量に出土している。

不明遺構 S X 405

調査区南側で検出された遺構である。S X 406と重複するが本遺構の方が古い。南西一北東方向から南東一北西方向にほぼ直角に屈曲する。

不明遺構 S X 407

調査区南側で検出された遺構である。南東一北西方向から南西一北東方向にほぼ直角に屈曲する。

ピット S P 03~06

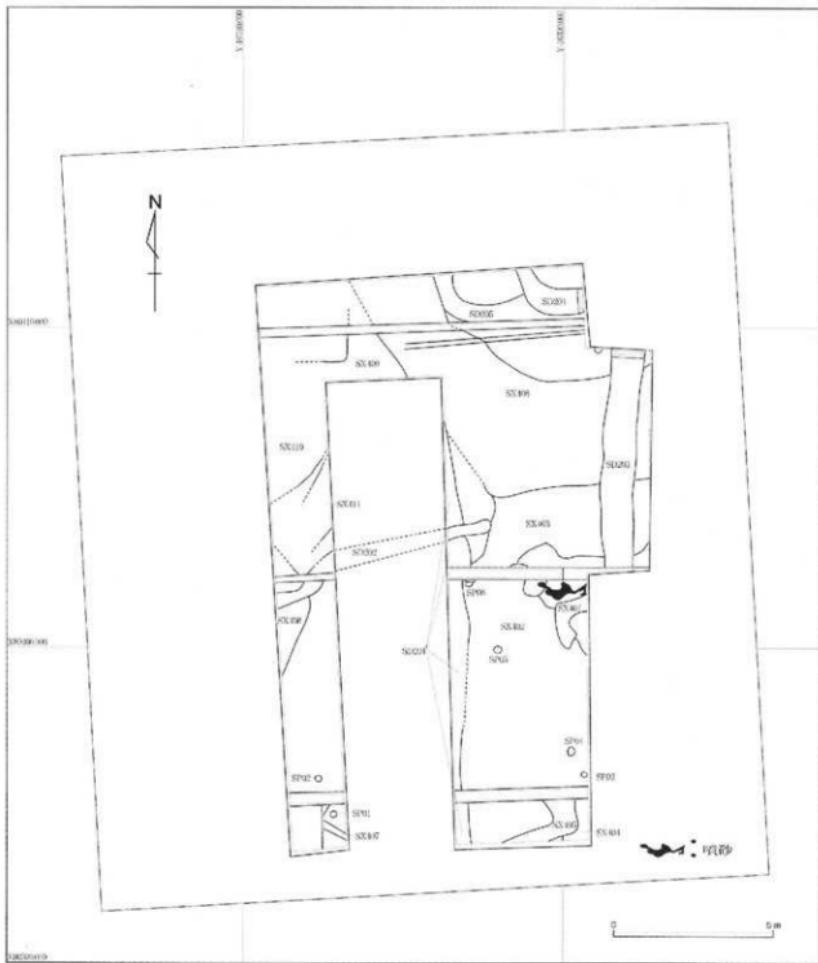
調査区南側で検出された遺構である。ピット間の距離が一定ではないが、横列などの可能性も考慮される。

第4節 総括

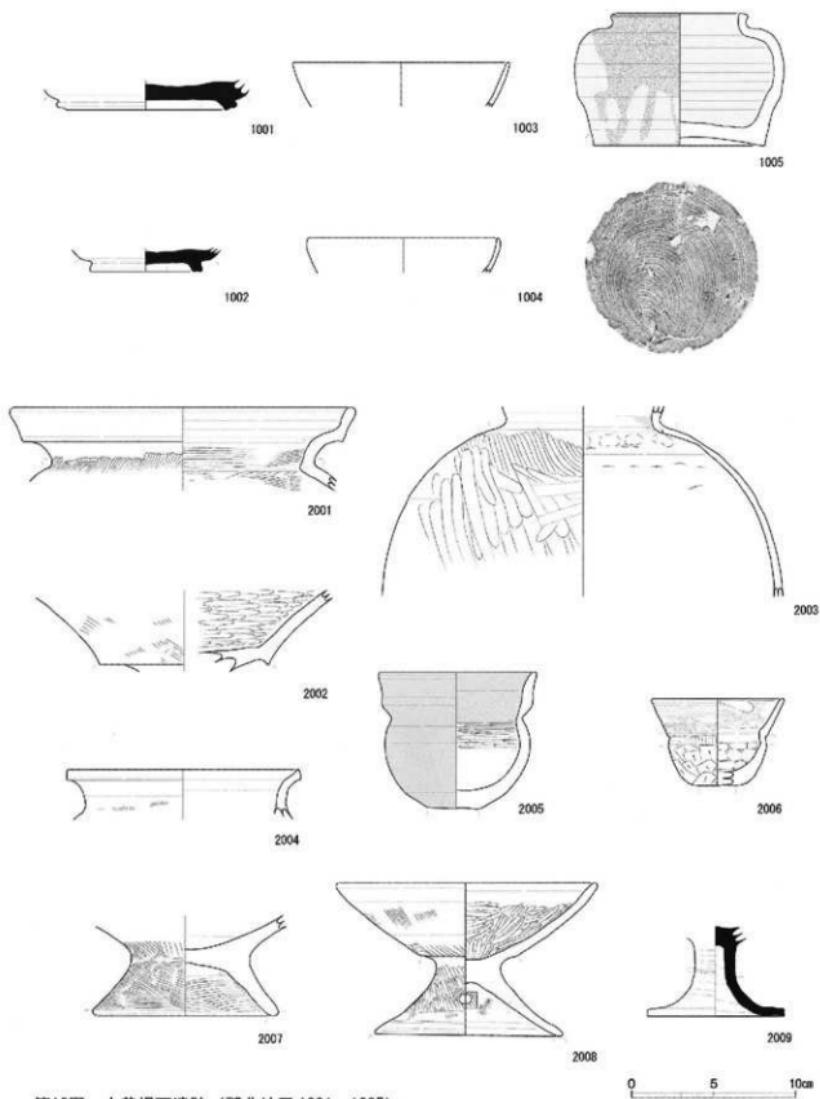
西佐野千代遺跡は、分布調査や昭和57年度の調査において弥生時代から古代までの遺物が確認されているが、従前までの調査件数が少なく実態の把握が困難な遺跡の一つである（高岡市教委1983・1992）。

今回の調査区は遺跡包囲地の西端に位置しており、遺跡の範囲を考えるうえでも重要な地点と目されたが、調査の結果、弥生時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が多量に検出されるに至った。

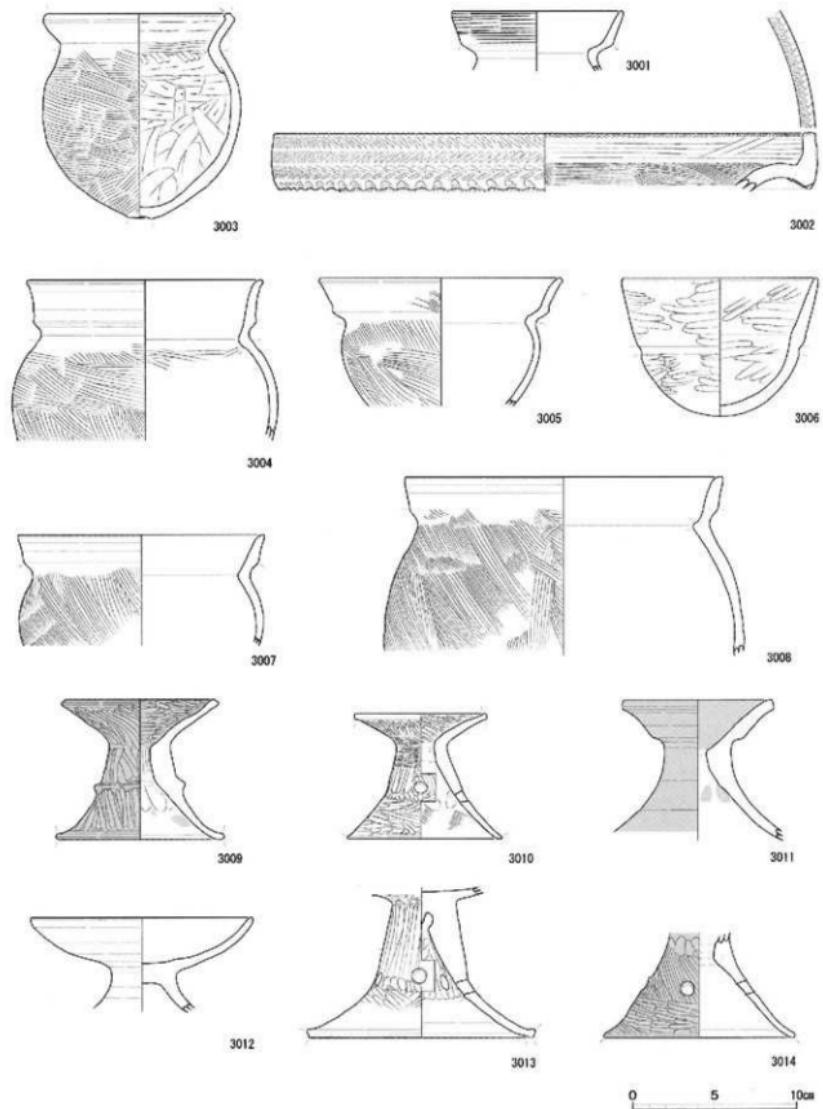
周辺には、県内における当該期の遺跡である石塚遺跡や石名瀬A遺跡などが群在しており、これらを含め、一つの遺跡群としての把握も要することが指摘されているが、これら遺跡群が今後の発掘調査の増加により少しづつ明らかになることを期待したい。



第11図 西佐野千代遺跡（松崎地区）遺構図



第12図 中曾根西遺跡（鶴北地区）1001～1005・
東木津遺跡（ピックライム地区）2001～2009）遺物実測図



第13図 西佐野千代遺跡（松崎地区）遺物実測図

縮尺：1／3

第5章 その他の遺跡調査

1. 桜谷古墳群（増井地区）

所在地 高岡市太田33番1、33番6

調査期間 平成21年4月8日

対象面積 173m²

試掘坑 2本

発掘面積 7 m²

調査原因 農家用納屋建設

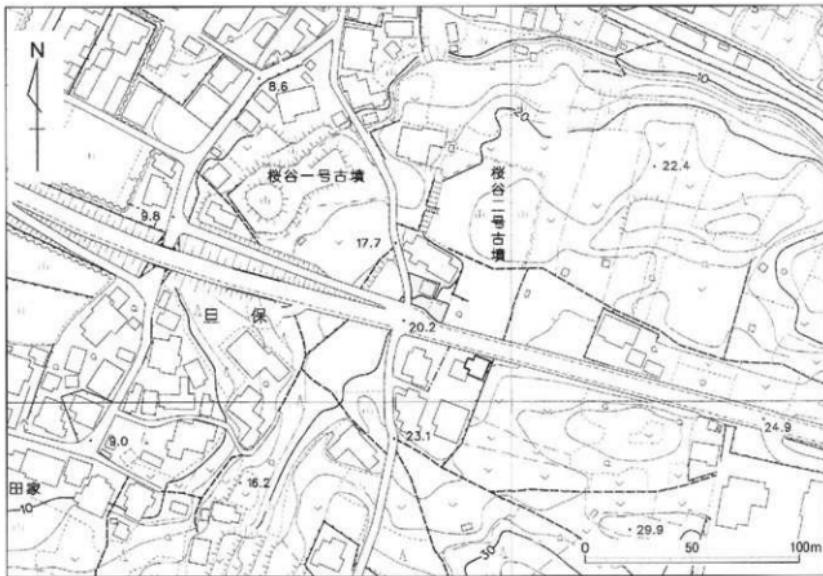
検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

桜谷古墳群は昭和9年に国指定史跡となった古墳群であり、古墳時代前期から後期まで存続したとされる。往時は十数基の古墳で構成されていたが、現在は3基が残存するのみであり、他の位置などは不明である(山口1999)。

今回の調査対象は2号墳の南西に位置する。対象地は小規模ながら、計2本の試掘坑を設定し調査を試みた。第1トレーナーでは深さ約40cm、第2トレーナーでは深さ約65cmのところで地山を確認したが、樹木の痕跡の他は全く遺構や遺物は確認されなかった。



第14図 桜谷古墳群（増井地区）位置図

2. 江尻南遺跡（村本地区）

所在地	高岡市江尻字村前1272番1
調査期間	平成21年4月15日～17日
対象面積	988m ²
試掘坑	4本
発掘面積	150m ²
調査原因	個人住宅建設・駐車場造成
検出遺構	なし
出土遺物	弥生土器・古代土師器・古代須恵器・中世土師器・中世珠洲・中世青磁・近世肥前陶磁・近世越中瀬戸・銅刺（北宋銭・熙寧元宝）・弥生時代石製品（棒状品）

調査概要

江尻南遺跡は、平成7年実施の分布調査により、縄文時代から中世にかけて長期存続の可能性をもつ包蔵地と考えられてきたが（高岡市教委1996他）、過去1度の試掘調査が行われたのみで、いまだ詳細は不明である。

今回の調査対象は、同遺跡の南西部に位置する。計4本のトレンチを設定し概ね中央部において幅30m以上の落ち込みを確認したが、人為的なものではなく、自然地形と考えたい。

今回の調査では、明確な遺構は確認されなかったものと思われるが、上記のとおり複数の時代の遺物が出土しており、少なくとも周辺には当該期の様相が所在したものと考えられる。



第15図 江尻南遺跡（村本地区）位置図

3. 越中国府関連遺跡（島地区）

所在地 高岡市伏木一宮 1丁目696の一部

調査期間 平成21年6月3日～4日

対象面積 366m²

試掘坑 3本

発掘面積 57m²

調査原因 集合住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

越中国府関連遺跡は、伏木台地上に所在し、古代において国府や国分寺などがおかれたものと推定される遺跡である。市街地化により明確な官衙施設の検出は少ないものの、県内を俯瞰しても古代瓦の出土（消費地）が圧倒数を占めており、上述の想定を裏付けるものと理解されている（根津2009他）。

今回の調査対象地は、同遺跡中央部のやや北側に位置する。計3つの試掘坑を設定し地下における遺構等の確認につとめた。

後世の擾乱を受けており確認作業は難航した。複数のピットや溝となる可能性のもつ地点を確認したもの、やや不明瞭であったため遺構とは判断しなかった。遺物の出土はない。



第16図 越中国府関連遺跡（島地区）位置図

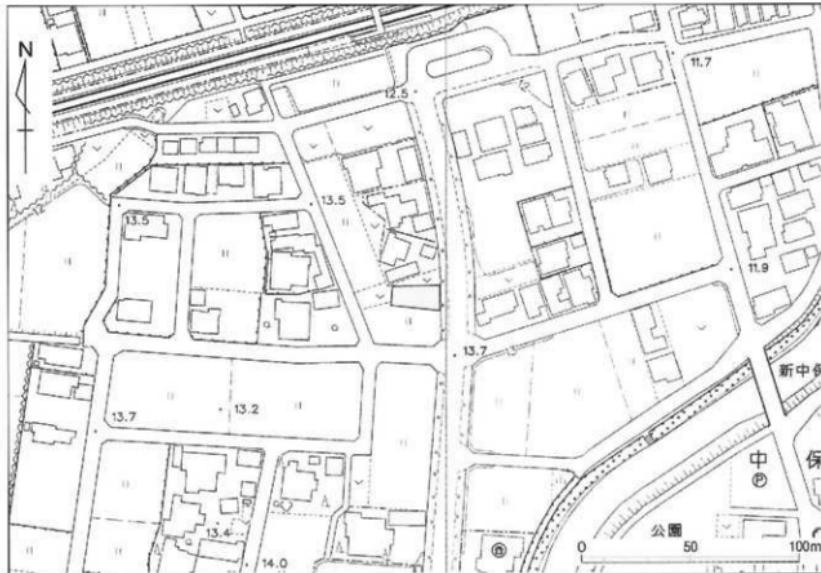
4. 中保B遺跡（中村地区）

所在地	高岡市中保1312番2
調査期間	平成21年7月3日
対象面積	315m ²
試掘坑	3本
発掘面積	22m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし
調査概要	

中保B遺跡は、祖父川左岸の標高13.2mの地に立地する。過年度の大規模調査により、事務棟や倉庫群と推定された掘立柱建物群をはじめ、船着場遺構や道路遺構などの遺構群が検出され、また木簡や「津三」「案調」「大家」「林家」「岡家」などといった文字史料のはか、帶金具・暗文土器・縁軸陶器・灰釉陶器などといった官衙的なもののほか、人形・船形・檜扇などの祭祀遺物も検出され、概して古代における官衙的な機能を有した遺跡と考えられている（根津2005他）。

調査対象地は同遺跡の北側に位置する。計3本の試掘坑を設定し調査を行い、表土層を含め3種の土層を確認したが、ほぼ全面にわたり第3層となる灰白色砂質土層が厚く堆積する状況であった。この砂層は上記大規模調査の折に洪水等の可能性が指摘されたものと同種である。

このような土層の堆積状況のはか、すでに地中深く掘削していることなどを鑑み、当該地については旧河川であったものと判断したい。遺物については特に出土していない。



第17図 中保B遺跡（中村地区）位置図

5. 越中国府関連遺跡（岩城地区）

所在地 高岡市伏木古府 3-11-24

調査期間 平成21年8月4日

対象面積 578m²

試掘坑 2本

発掘面積 12m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

越中国府関連遺跡の概要については前述のとおりである。

今回の調査対象地は同遺跡としては西側に位置する。山間部を目前にひかえるが、当該地近隣は北方から南方へと傾斜する地形となっている。

調査については、計2箇所の試掘坑を設定し実施した。表土と地山を除き計2層を確認したが、いずれも旧傾斜地を住宅地に形成するための整地上と理解した。

遺構・遺物ともに検出はされていない。



第18図 越中国府関連遺跡（岩城地区）位置図

6. 岩坪岡田島遺跡（島井地区）

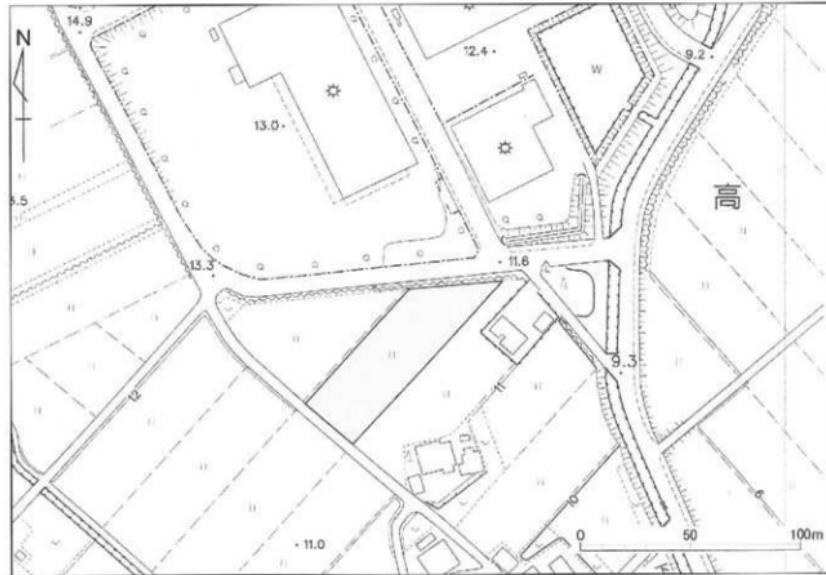
所在地	高岡市国吉1989番
調査期間	平成21年9月7日～18日
対象面積	2,534m ²
試掘坑	2本
発掘面積	295m ²
調査原因	工場建設
検出遺構	溝状遺構、土坑、ピット
出土遺物	弥生土器、古代土師器、古代須恵器、砥石、鉄滓、土錘、輪の羽口、中世土師器、中世珠洲、近世越中瀬戸、近世陶磁器

調査概要

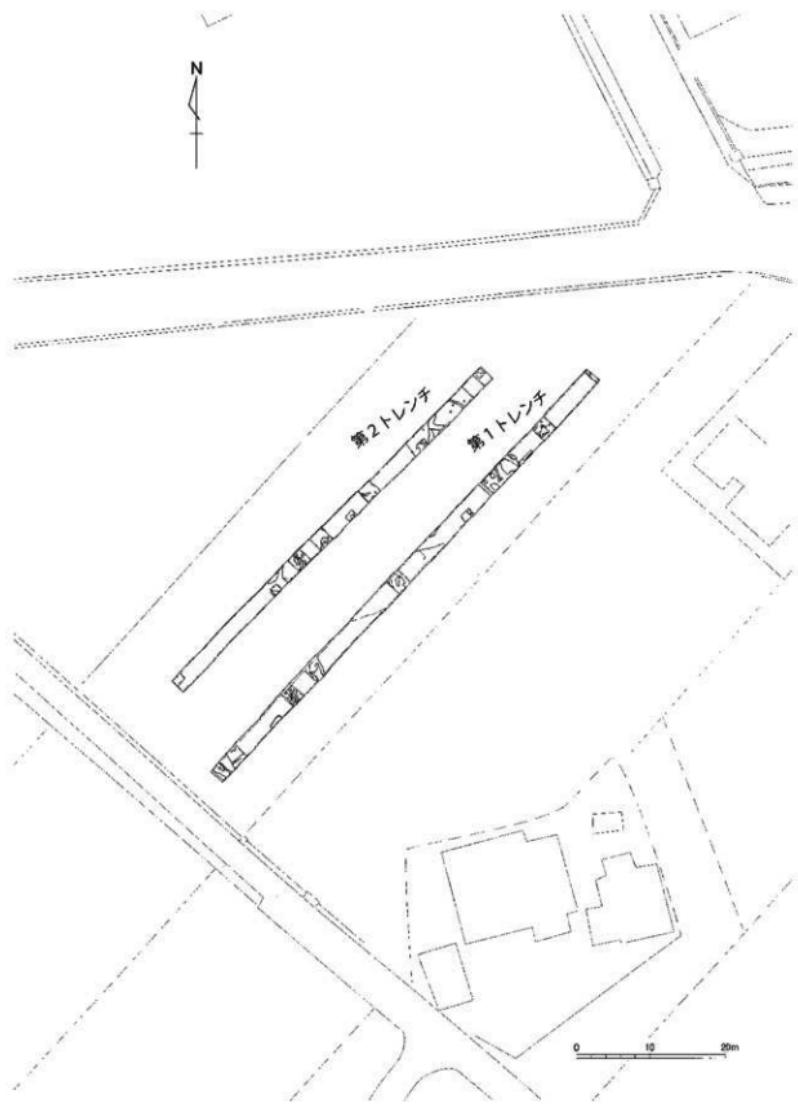
岩坪岡田島遺跡は、東大寺領須加荘の比定地の一つに近く（和田1959）、これとの関連が注目される遺跡である。過去においても高岡市や衛富山県文化振興事業団による発掘調査が実施されているが、いまのところ同荘との関連が指摘できる明確な検出物は希少である（根津2005他）。

今回の調査対象地は同遺跡の北東端に該当する。計2本の試掘坑により調査をした結果、上記のような検出物をえた。これにより、当遺跡が複数の時期に及ぶことがあらためて確認された。一方の遺構については、覆土の掘削を行っておらず帰属時期や性格の特定は困難である。

なお、土層については地山を除き5層に細分可能であるが、上位2層は表土、第3層目は不明ながら、以下2層は上記遺物の包含層である。



第19図 岩坪岡田島遺跡（島井地区）位置図



第20図 岩坪岡田島遺跡（島井地区）調査区全体図

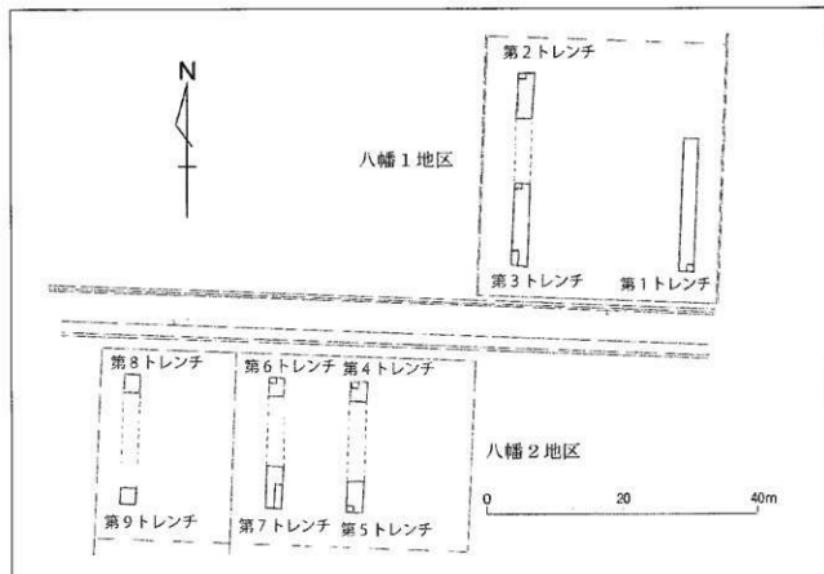
7. 赤丸古村遺跡（八幡1地区、八幡2地区）

所 在 地	高岡市石堤154-3、高岡市石堤135外
調査期間	平成21年10月6日～7日
対象面積	999m ²
試 挖 坑	3本、6本
発掘面積	67m ² 、42m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし
調査概要	

赤丸古村遺跡は、高岡市石堤に所在する古代から近世の遺跡とされているが、縄文時代の様相が存在する可能性についても指摘がある。

今回の調査区は、周知の包蔵地内の中央部よりやや南側の地に該当する。八幡1地区で3本、同2地区で6本のトレンチを設定し調査したが、いずれも自然流路とおぼしきものが検出された。

当遺跡では過去3件の試掘調査においても、明確な遺構の検出や遺物の出土は確認されていないが、今回の調査でも同様の結果となった。



第21図 赤丸古村遺跡（八幡1地区、八幡2地区）位置図

8. 上黒田遺跡（加藤1地区、加藤2地区、中村地区）

加藤1地区 所在地：高岡市上黒田2006-1

調査期間：平成21年10月9日～14日

対象面積：838m²（調査面積81m²）

出土遺物：古代土師器・中世土師器・中世珠洲・近世陶磁器

加藤2地区 所在地：高岡市上黒田1972番

調査期間：平成21年10月14日～16日

対象面積：661m²（調査面積74m²）

出土遺物：中世珠洲

中村地区 所在地：高岡市上黒田2008-1外

調査期間：平成21年10月13日～15日

対象面積：838m²（調査面積75m²）

出土遺物：中世珠洲・近世越中瀬戸

調査概要

上黒田遺跡は古墳時代から中世の遺跡とされる。周辺は東大寺領鳴戸荘の比定地に該当するが（金田1998他）、分布調査の他は今まで特に発掘調査の機会はなく、詳細は不明のままであった。

今回、個人住宅の建設にともない同遺跡の中央部に3件の試掘調査を実施した。加藤両地区では各1本、中村地区では計2本の試掘坑を設定し調査を実施した。その結果、古代から近世の土器類が数点出土したが、遺構は検出されなかった。



第22図 上黒田遺跡（加藤1地区、中村地区、加藤2区）位置図

9. 江尻遺跡（圃場整備地区）

所在地	高岡市福岡町江尻地内
調査期間	平成21年10月19日～12月4日
対象面積	13,815m ²
試掘坑	26本
発掘面積	1,424m ²
調査原因	圃場整備
検出遺構	溝状遺構、土坑、ピット、不明遺構
出土遺物	縄文土器、打製石斧・擦痕のある石器、弥生土器、石包丁、古墳時代土師器、古代土師器、中世珠洲、近世陶磁器

調査概要

江尻遺跡は、旧福岡町と財富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所による計9回の調査が実施されている。能越自動車道の建設にともなう大規模発掘調査では、弥生時代の土坑や溝状遺構のほか、古墳時代の方形周溝状遺構、そして近代における木札などが検出されている。

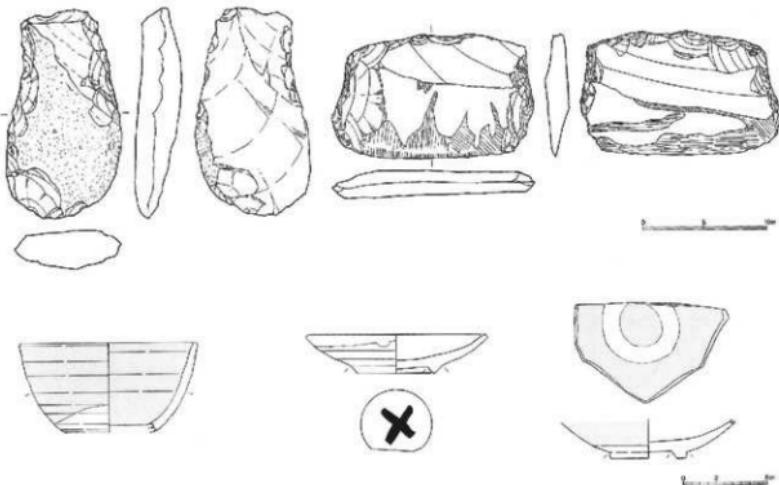
なお、木札の表面には「戸長 小神村・小矢部村 役場」とあり、裏面にも「役場」と書かれており、明治12年から17年まで当該地に所在した「戸長役場」の存在が指摘されている（森1996）。

今回の調査対象地は上記の大規模調査区と隣接する。対象面積が広範囲に及ぶためA～Hの計8地区に細分し26本の試掘坑を設定した。

その調査の結果、当該地では地点により2つの時代の生活層が存在することを確認した。一つは縄文時代から弥生時代のもので、他は近世から近代までの生活層である。

縄文時代から弥生時代のものとしては、F・G区で溝状遺構やピット等の遺構を検出したほか、打製石斧や弥生土器片が出土した。またE区からは縄文土器が、B・E・F・G区の各包含層からは弥生土器や石包丁が出土している。ただし、土層の堆積状況を鑑みると同時代の様相は地點的に存在するのみで、上記4地区以外の地については河川や湿地帯であったと考えられる。

近世の様相としては、越自動車道の建設にともなう大規模発掘調査区と隣接する八区において、近世屋敷跡とともに溝の延長を検出した。またB・F区では当該期のものとみられる溝状遺構をはじめ、土坑やピットを検出した。C・II区には河川跡がひろがるものと理解した。



第23図 江尻遺跡（圓場整備地区）位置図及び出土遺物実測図

10. 下黒田遺跡（畠地区）

所在 地	高岡市下黒田276外
調査期間	平成21年11月12日～16日
対象面積	2,201m ²
試 挖 坑	6 本
発掘面積	78m ²
調査原因	マンション建設・個人住宅建設・作業所移設
検出遺構	なし（ただし2条の自然流路を検出）
出土遺物	古代土師器・中世土師器・中世珠洲・近世陶磁器
調査概要	

下黒田遺跡は、平成21年に旧II S-02遺跡を名称変更した遺跡である。当初は高岡市駅南地区の東西1.3kmに及ぶ包蔵地であったが、度重なる試掘調査等により現在の範囲に修正されている。

今回の調査対象地は、現在の指定範囲の北西に該当する。調査区を北から順に1区、2区、3区とし、それぞれ1本、3本、2本のトレレンチを設定した。

その結果、人為的な遺構は検出されなかったものの2条の自然流路を検出した。古代から近世までの土器片も数点出土しているが、磨滅が激しいため他の地点からの流れ込みと考えられる。

なお、下黒田遺跡については過年度まで明確な遺構の検出があまり見られなかつたが、同年度、当調査区の西側隣接地が財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所により本発掘調査し、一定の成果が検出されている。この調査成果もふくめ、当遺跡の性格について今後検討していくべきと考える次第である。



第24図 下黒田遺跡（畠地区）位置図

11. 瑞穂町遺跡（仲宗根地区・海瀬地区）

仲宗根地区 所在地：高岡市瑞穂町148-3
対象面積：165m²（調査面積20m²）

海瀬地区 所在地：高岡市瑞穂町148-11
対象面積：165m²（調査面積14m²）

調査概要

今回の調査対象地は瑞穂町遺跡の中央部に位置する。宅地分譲により原因者が異なったため便宜上調査区を2地区に分割したが、試掘調査は平成21年11月19日～20日に同時に実施した。また、双方から同一遺構を検出したことから、本書では一括で成果を述べることとする。

両地区とも対象地に試掘坑を1本ずつ設定した。後世の搅乱により地山が遺構確認面となり、とくに遺物包含層などは確認されていない。

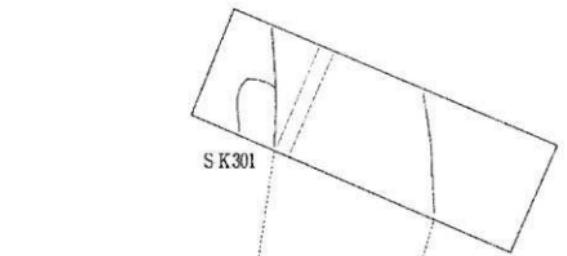
仲宗根地区でピットS P01を、海瀬地区で土坑S K301を検出したほか、両地区から溝状遺構S D201が検出されている。同遺構は幅2.5m、深さ24cmで断面形状は弧状を呈する。また古墳時代後期と考えられる土師器片が数点出土している。

なお、今回の調査地区と隣接する「大和ハウス工業地区」の調査では、S D201と同規模・同時代とみられる溝状遺構が検出されている（高岡市教委2003）。



第25図 瑞穂町遺跡（仲宗根地区、海瀬地区）位置図

N



0 5m

第26図 瑞穂町遺跡（仲宗根地区・海瀬地区）遺構図

12. 戸出4丁目北遺跡（池田地区）

所 在 地	高岡市戸出町5-10-4
調査期間	平成21年11月24日
対象面積	73m ²
試 挖 坑	1本
発掘面積	10m ²
調査原因	駐車場建設
検出遺構	時期不明溝状遺構1条・古墳土坑1基・時期不明土坑1基
出土遺物	古墳土師器
調査概要	

戸出4丁目遺跡は高岡市戸出市街地の西部に位置する。同遺跡は過去2度の試掘調査を実施したが、いずれも遺構・遺物ともに検出されず、内容は依然として不明であった。

今回の調査対象地は、同遺跡の南端に位置する。試掘坑を1本設定し調査を実施したところ、溝状遺構1条（S D201）と土坑2基（S K301・S K302）を検出した。

溝状遺構SD201は、幅60~80cm、深さ35~40cmの規格を呈する。東西方向にほぼ正方位を呈しており、何らかの区画に関する溝状遺構の可能性がある。サブトレーナにて一部覆土を掘削したところ、古墳時代前期の土師器の壺と甕が出土したが、遺構の存続時期は検討の余地があると思われる。



第27図 戸出4丁目北遺跡（池田地区）位置図

13. 下佐野遺跡（瀬川地区）

所 在 地 高岡市佐野998-5

調査期間 平成21年11月24日

対象面積 199m²

試 挖 坑 1本

発掘面積 4 m²

調査原因 農業用施設建設

検出遺構 なし

出土遺物 古代土師器・古代須恵器

調査概要

下佐野遺跡は、既往においては弥生時代後期の様相を有する遺跡とされてきた。しかし、周辺地域の発掘調査が進むにつれ「石塚遺跡群」としての包括的認識が提起されたほか、当該遺跡をめぐっても、昨今では古代の様相が注目を受け、再検討をする状況にある。

今回の調査対象地は、同遺跡の中央部からやや東側に該当する。試掘坑を1本設定し調査を実施したが、後世の擾乱などにより、上記の遺物を出土した他は、とくに遺構などは検出されなかった。



第28図 下佐野遺跡（瀬川地区）位置図

14. 下佐野遺跡（豊原地区）

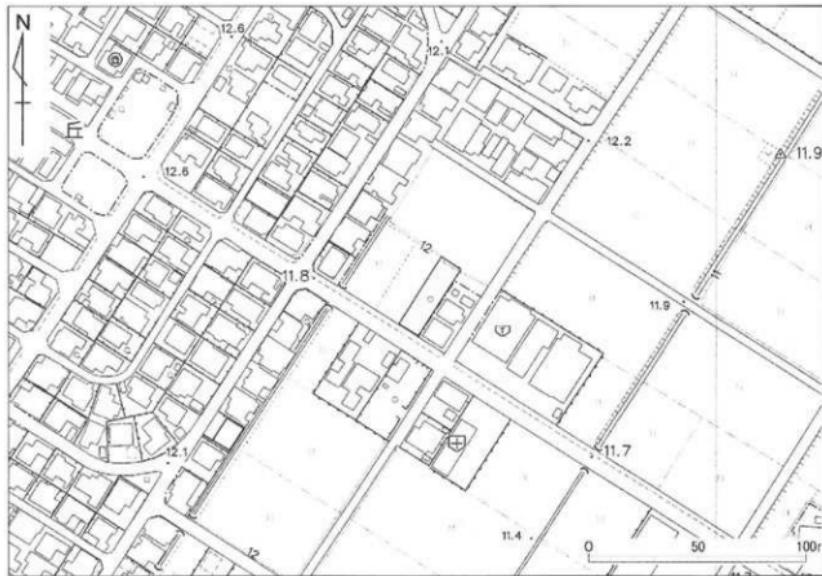
所在地	高岡市佐野908番1
調査期間	平成21年11月24日～12月3日
対象面積	430m ²
試掘坑	3本
発掘面積	55m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	古代溝状遺構・ピット・窪地
出土遺物	古代土師器・古代須恵器・古代木製品（人形・横櫛・板状品・棒状品）
調査概要	

調査対象地は下佐野遺跡の北西部に位置する。調査対象地の北側地区に1本、南側地区に2本のトレンチを設定し調査した。

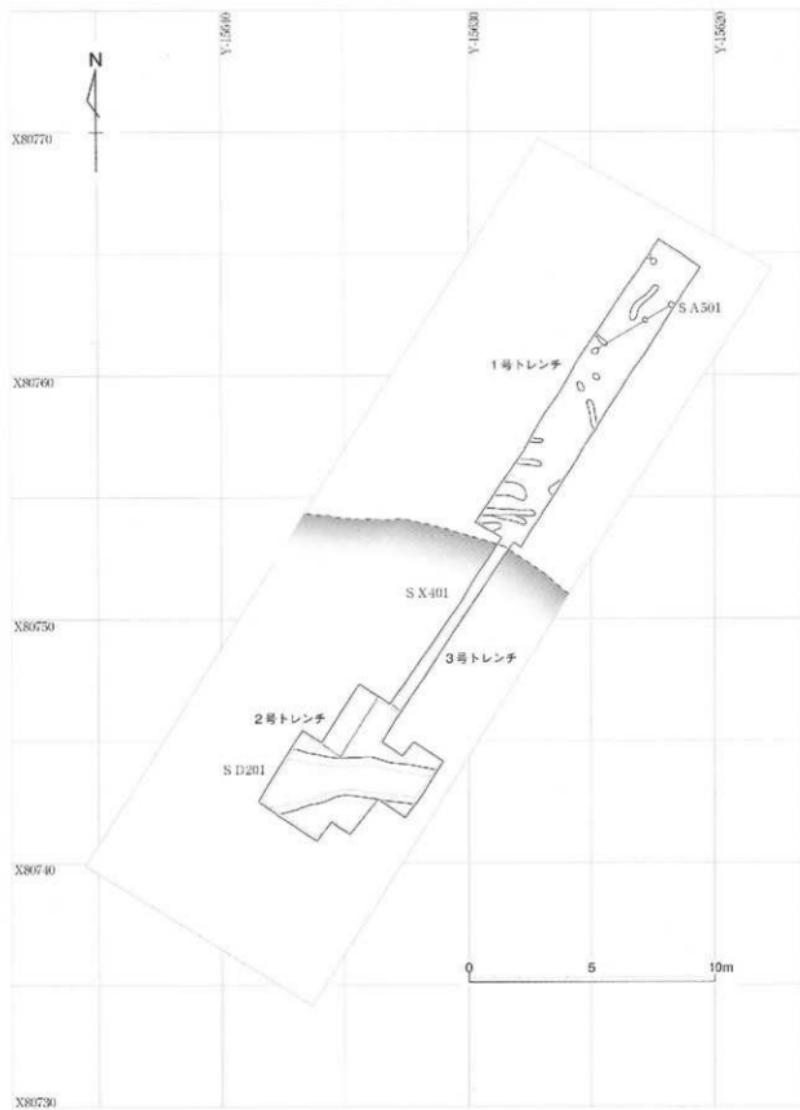
その結果、調査区南側では河川跡とみられる落ち込み（S X401）を確認した。また、これと連なるとみられる溝状遺構 S D201の覆土からは大量の遺物が出土した。

概して出土遺物の多くは磨滅があまりみられないため、他の地点から流れ着いたものではなく、当該地にて廃棄された可能性がある。

なお、22年度には当該地区において本発掘調査が実施されており、その詳細については次回報告にて掲載することとしたい。



第29図 下佐野遺跡（豊原地区）位置図



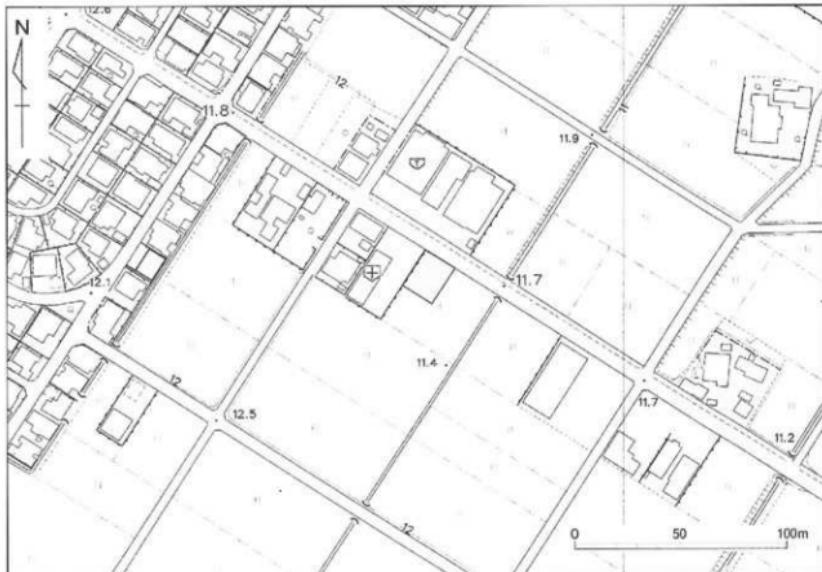
第30図 下佐野遺跡（豊原地区）遺構図

15. 下佐野遺跡（作田地区）

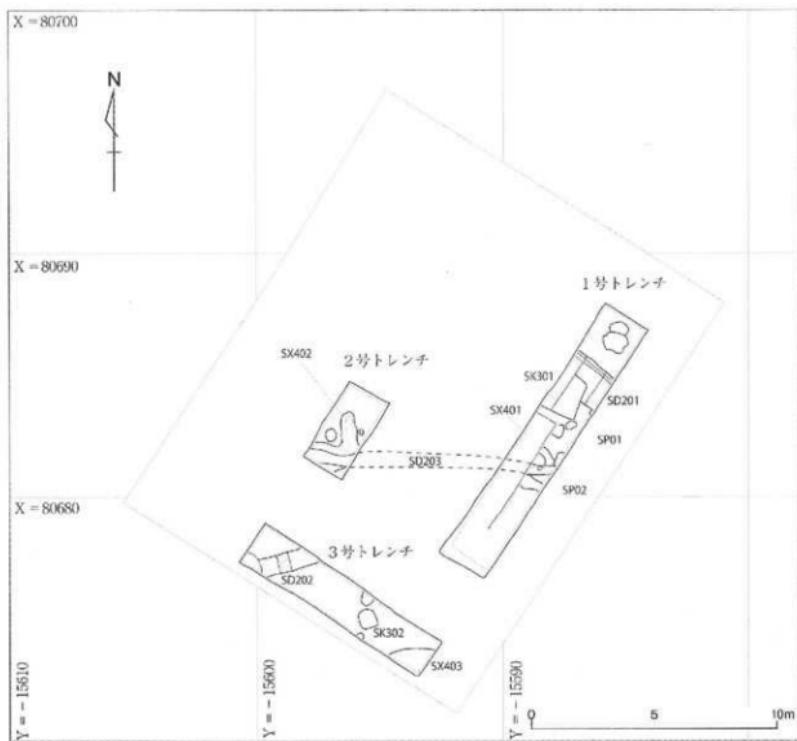
所在 地	高岡市佐野919-5
調査期間	平成21年11月26日～12月3日
対象面積	320m ²
試 挖 坑	3本
発掘面積	48m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	古代溝状遺構・古代土坑・古代ピット・中世溝状遺構・中世土坑・中世ピット
出土遺物	古代土師器・古代須恵器・中世珠洲・中世青磁
調査概要	

今回の調査対象地は下佐野遺跡の中央よりやや北側に位置する。3箇所に試掘坑を設定し地下における遺構等の確認につとめた。

後世の擾乱を受けていため遺構確認面は地山となったが、上記の遺構群と遺物を検出した。調査区は狭く、且つ試掘調査ということもあり、歴史的な様相の把握は困難であるが、近隣には上述の「豊原地区」なども所在する。大規模発掘調査もさることながら、こうした小規模調査の成果を積み重ねていくことも並行して実施すべきと考える次第である。



第31図 下佐野遺跡（作田地区）位置図



第32図 下佐野遺跡（作田地区）遺構図

16. 下老子笛川遺跡（杉森地区）

所在地 高岡市福岡町下老子564-1

調査期間 平成21年11月26日

対象面積 740m²

試掘坑 4本

発掘面積 68m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 古墳土師器・古代土師器・古代須恵器

調査概要

下老子笛川遺跡は、旧高岡市域と旧福岡町域の境界線上に位置する遺跡である。能越自動車道の建設とともに大規模調査をはじめ、大小多くの地に発掘調査が実施されており、概して縄文晩期から近世に及ぶ遺跡であることが判明している（富山県文振2006）。

今回の調査対象地は同遺跡の北西端に該当する。調査対象地の4隅に試掘坑を設定し調査したところ、明確な遺構を確認することはできなかったものの、平安時代の土師器や須恵器をはじめ、古墳時代の土師器を検出した。

なお、土層の堆積状況から、旧地形は南から北へとむかう傾斜することが確認できた。また、調査区南側は旧微高地と考えられるが、圃場整備による削平を受けているとみられる。



第33図 下老子笛川遺跡（杉森地区）位置図

17. 西佐野千代遺跡（栗田地区）

所在地 高岡市佐野468-7、469-4

調査期間 平成21年12月2日

対象面積 432m²

試掘坑 2本

発掘面積 8 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 古代土師器・近世陶磁器

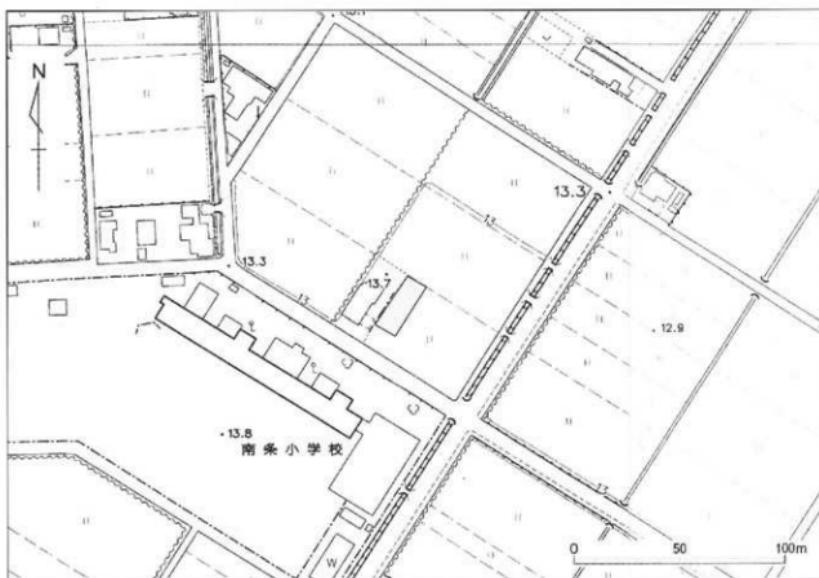
調査概要

西佐野千代遺跡の概要については前述した。今回の調査地は高岡市立南条小学校の敷地の北東に位置する。計2箇所に試掘坑を設定し地下における遺構等の確認を実施した。

地山を除き土層は4層に細分された。I層が耕作土、II層が灰色粘質土、III層が黒色粘質土、IV層が黒褐色粘質土（腐植物含む）である。

反方の試掘坑のII層から近世陶磁器が出土しているほか、第2トレンチのIII層から古代の土師器が出土しているが、とくに遺構は検出されなかった。

なお、当該地は北方から南東方向へと傾斜していく地形であることが判明している。



第34図 西佐野千代遺跡（栗田地区）位置図

参考文献

- 金田章裕 「古代莊園と景観」東京大学出版会 1998
- 高岡市 「高岡市市制100年記念誌 たかおか—歴史との出会い—」1991
- 高岡市教育委員会 「昭和57年度 高岡市埋蔵文化財調査概報」1983
- 高岡市教育委員会 「高岡市埋蔵文化財分布調査概報III」1992
- 高岡市教育委員会 「高岡市埋蔵文化財分布調査概報VI」1995
- 高岡市教育委員会 「高岡市埋蔵文化財分布調査概報VII」1996
- 高岡市教育委員会 「4. 試掘調査 IV 赤丸古村遺跡、公民館地区」「市内遺跡調査概報IV」1998
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（堀井地区）」「市内遺跡調査概報X」2000
- 高岡市教育委員会 「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」2001
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（山崎地区）」「市内遺跡調査概報X 1」2001
- 高岡市教育委員会 「中保B遺跡調査報告」2002
- 高岡市教育委員会 「瑞穂町遺跡（大和ハウス工業地区）」「市内遺跡調査概報X II」2003
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡調査概報I 内科医院の建設に伴う岡口地区の発掘調査—I」2004
- 高岡市教育委員会 「中曾根西遺跡調査報告—平成15年度県道姫野能町線改良工事にともなう発掘調査—I」2005
- 高岡市教育委員会 「岩坪岡田島遺跡調査概報—I平成16年度グラスクьюーブ地区の調査—I」2005
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡調査報告—市道清水町三丁目蘇平蔵線拡幅工事に伴う平成18年度の調査—I」2007
- 高岡市教育委員会 「高岡市前田墓所調査報告」2008
- 高岡市教育委員会 「中曾根西遺跡調査報告II—高岡市中曾根西地区面整理事業に伴う平成21年度の調査—I」2010
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（泉が丘内科クリニック駐車場地区）」「市内遺跡調査概報X VII」2008
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（今井地区）」「市内遺跡調査概報X VIII」2009
- 高岡市教育委員会 「中曾根西遺跡（区画整理地区）」「市内遺跡調査概報X IX」2010
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（吉岡地区）」「市内遺跡調査概報X IX」2010
- 砺波市教育委員会 「久泉遺跡発掘調査報告 I」2004
- 砺富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 「江尻遺跡・妻島遺跡発掘調査報告」2003
- 砺富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 「下老子篠川遺跡発掘調査報告」2006
- 砺富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 「岩坪岡田島遺跡 手洗野赤浦遺跡 近世北隣遺跡 発掘調査報告」2007
- 砺富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 「施原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）」1996
- 根津明義 「東大寺領須加庄の所在にかかる考古学的考察」「富山史蹟」第148号 岐阜史蹟会 2005
- 根津明義 「古代における物資輸送の一形態 一主に内陸における船着場選擇への認識をめぐってー」
藤井一二 編「古代の地域社会と交流」岩田書院 2005
- 根津明義 「古代越中における官衙的様相と在地社会」
木本秀樹編「環日本海歴史民俗学叢書13 古代の越中」 高志書院 2009
- 梶沢祐一 「越中國の律令祭祀と官衙遺跡」
「フォーラム古代北陸の国と郡の成立立ち」第2回「富山の奈良時代を掘る」フォーラム資料 2001
- 宮川進一 「5. 北隣」「概説 中世の土器・陶器」1995
- 森隆一 「江尻遺跡における近代屋敷跡について」
「埋蔵文化財調査概要—平成7年度—」砺富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1996
- 山口辰一 「高岡市桜谷古墳群」「富山平野の出現期古墳」富山考古学会 1999
- 和田一郎 「須加野・須加庄」「高岡市史 上巻」高岡市史編纂委員会 1959

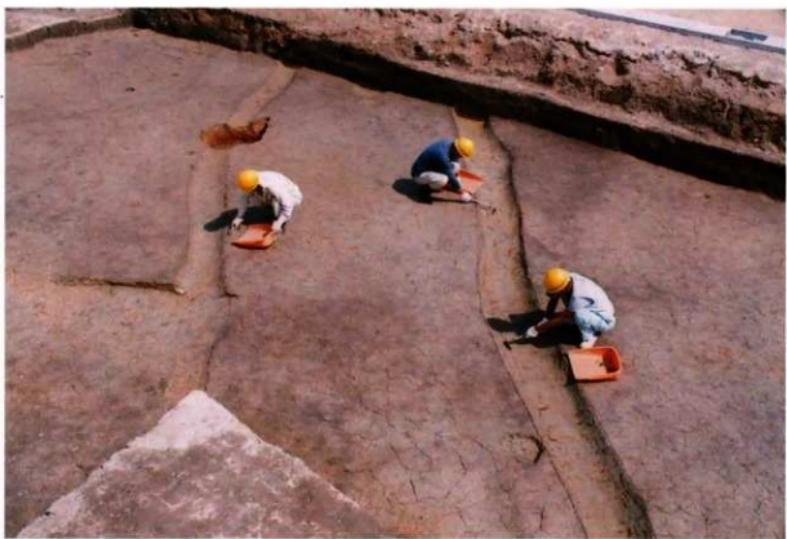
報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうにじゅう							
書名	市内遺跡調査概報XX							
副書名	平成21年度、中曾根西遺跡・東木津遺跡・西佐野千代遺跡の調査他							
卷次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第70冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
発掘担当者	山口 晴一							
報告書編集者	田上 和彦 道振 弘明 横津 明義							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 TEL 0766-20-1463							
発行年月日	西暦2011年3月4日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな		コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	所在地	市町村	遺跡番号	°°'	°°'			
中曾根西遺跡 鷺北地区	富山県 高岡市 中曾根	016202	202120	36° 46' 5"	137° 4' 20"	090407 090520	215m ²	個人専用 住宅建設
東木津遺跡 ピッグライム地区	富山県 高岡市 佐野	016202	202150	36° 43' 45"	136° 59' 36"	090610 090625	157m ²	店舗建設
西佐野千代遺跡 松崎地区	富山県 高岡市 和田	016202	202164	36° 43' 28"	136° 59' 2"	090713 090806	144m ²	個人専用 住宅建設
その他他の遺跡 各調査地区	富山県 高岡市内	016202				20030521 ~ 20030804		住宅建築等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中曾根西 鷺北地区	集落 散布地	古代 中世	溝状遺構・土坑 ピット	古代土師器 古代須恵器 近世陶器				
東木津 ピックライム 地区	集落 散布地	古墳 古代	堅穴住居址 溝状遺構・土坑 ピット	古墳時代土師器 古代土師器 古代須恵器				
西佐野千代 松崎地区	散布地	弥生 古墳	溝状遺構・土坑 ピット他	弥生土器 古墳時代土師器				

図版〇
中曾根西遺跡（鶴北地区）



1. 調査区全景（北西より）



2. 道路遺構等調査状況（南東より）

図版〇一
東木津遺跡（ビッグライム地区）



1. 調査区全景（南より）



2. 壁穴住居址 S I 701全景（南西より）

図版〇三
東木津遺跡（ビッグライム地区）



1. 調査区全景（北東より）



2. 壁穴住居址 S I 701調査状況（南より）

図版〇四
東木津遺跡
(ピッグライム地区)



1. 土坑 S K301遺物出土状況（南より）



2. ピット S P02遺物出土状況（北より）



1. 堪穴住居址 S I 702全景（南東より）



2. 堪穴住居址 S I 702遺物出土状況（北より）



1. 須恵器 高杯 (2009)
出土状況



2. 土師器 高杯 (2007)
出土状況



3. 竪穴住居址 S I 701
土師器壺(2001)出土状況



1. 調査区全景（北東より）



2. 第1トレンチ全景（北より）



1. 土師器 器台（3009）出土状況



2. 土師器 壺（3007）出土状況



1. 不明遺構 S X409検出状況（北より）



2. 古墳前期土師器 壺 出土状況



1. 第Ⅲ層
遺物出土状況（南東より）



2. 土師器 器台
出土状況



3. 土師器 器台
出土状況

圖版二
— 西佐野千代遺跡（松崎地區）



1. 土師器 器台
(3014) 出土狀況



2. 土師器 高杯
出土狀況



3. 第Ⅲ層
遺物出土狀況

図版一二
江尻遺跡（圃場整備地区）



1. B区第9トレンチ遺構検出状況（南西より）



2. C区第16トレンチ 溝状遺構S D01検出状況（南西より）



1. E区第24トレンチ遺構検出状況（南東より）



2. F区第21トレンチ遺構検出状況（西より）

図版一四 江尻遺跡（圃場整備地区）



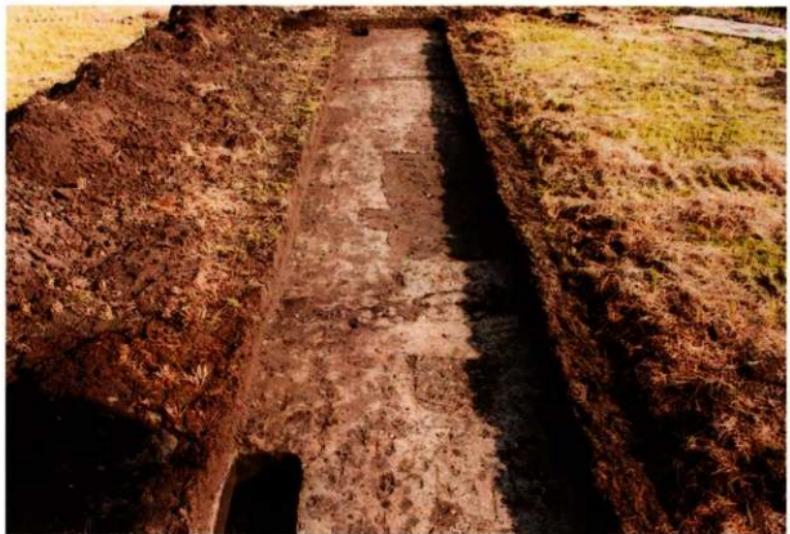
1. G区第23トレンチ遺構検出状況（南西より）



2. G区第23トレンチ遺構検出状況（南より）



1. G区第23トレンチ 弥生土器出土状況（北より）



2. H区第18トレンチ遺構検出状況（東より）



1. B区第9トレンチ
打製石斧(4001)出土状況



2. G区第23トレンチ
石包丁(4002)出土状況



3. H区第18トレンチ
遺構検出状況(南より)

高岡市埋蔵文化財調査概報 第70冊

市内遺跡調査概報 XX

—平成21年度、中曾根西遺跡・東木津遺跡・西佐野千代遺跡の調査他—

編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号
TEL 0766-20-1433

2011(平成23)年3月4日 発行

印 刷 小間印刷株式会社

〒933-0927 富山県高岡市利屋町3
TEL 0766-21-0111
